

課 題 ブドウのアグレプト液剤の処理時期の検討（１年目）

１ 背景・ねらい

シャインマスカットや藤稔は、ジベレリン処理だけでは種子が混入しやすい品種として報告があり、無核化に効果があるアグレプト液剤の処理時期（満開予定日の２週間前～開花始期、またはジベレリン１回目処理時に混用）について、花房の外観や結果枝の伸長段階等から適期を判断するための目安となる形状や特徴の調査を行った。

２ 試験構成及び結果

本試験では、供試品目としてシャインマスカット及び藤稔を用い、各品種について、基準日時点で展葉４～８節まで新梢が伸長したときに、花穂にアグレプト溶液 200ppm を噴霧した（表１①、表２）。また、シャインマスカットではジベレリン１回目処理時にジベレリン 25ppm＋フルメット 5ppm＋アグレプト 200ppm 溶液に花房を浸漬処理した。

収穫後、各房の果粒に種子が形成されているかを確認したところ、展葉８節まではシャインマスカットでは種子形成は見られなかった。藤稔では１房で種子を確認したが、４房では種子形成は見られなかった。

これに対し、開花が進んだ状態（藤稔）や満開時にジベレリンと混用して処理する（シャインマスカット）と、調査した房のほとんどで種子が形成されていた。

以上の結果から、無核化を目的にアグレプト処理を行う場合は、開花が進行する前が処理適期であることが確認できた。

３ 今後の展開や結果の活用

農家に対し、アグレプト液剤の適切な使用方法を指導し、品質向上をはかる。

表１ シャインマスカットの種子形成状況の比較

	No.	AG処理時期	AG処理日	GA処理日 (1回目)	収穫物調査結果			
					房重 (g)	全粒数 (粒)	種あり (粒)	割合
シャインマスカット	①	展葉４節	5月9日	5月18日	455	40	0	0%
		展葉６節	5月9日	5月18日	525	39	0	0%
		展葉７節	5月9日	5月18日	550	47	0	0%
		展葉７節	5月9日	5月19日	525	41	0	0%
		展葉８節	5月9日	5月18日	380	35	0	0%
	②	満開時 GA 1 回目と同時	5月23日	5月23日	625	41	1	2%
					490	33	4	12%
					425	29	0	0%
					560	39	3	8%
					510	39	2	5%

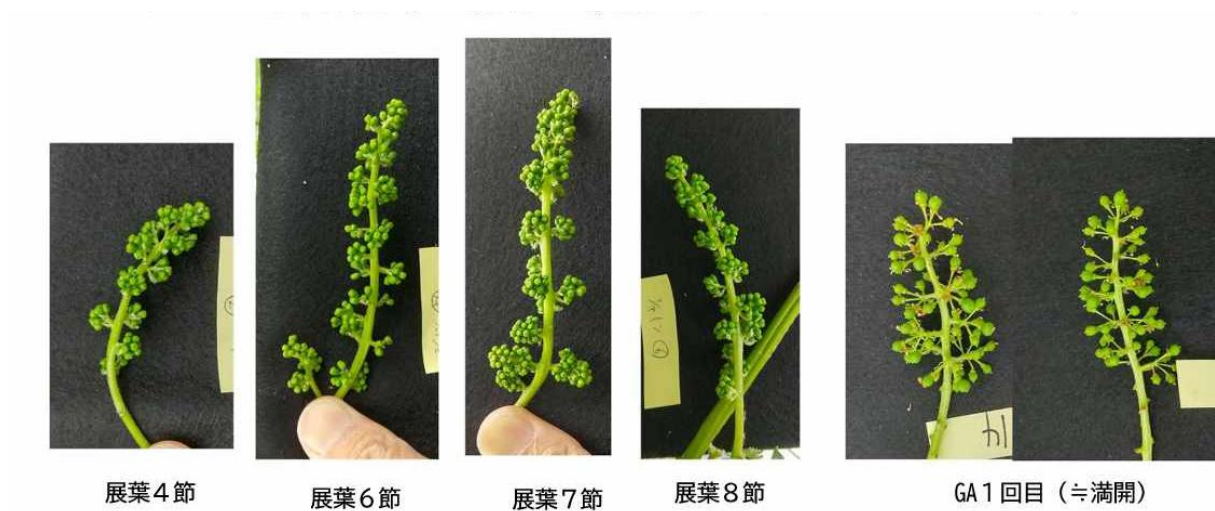


表2 藤稔の種子形成の状況

	No.	AG処理時期	AG処理日	GA処理日 (1回目)	収穫物調査結果			
					房重 (g)	全粒数 (粒)	種あり果	割合
藤 稔	A	展葉6節	5月9日	5月19日	385	35	0	0%
		展葉6節	5月9日	5月20日	363	33	0	0%
		展葉7節	5月9日	5月19日	370	33	0	0%
		展葉8節	5月9日	5月18日	330	30	2	7%
		展葉8節	5月9日	5月18日	396	33	0	0%
	B	開花期 (摘蕾後)	5月9日	5月13日	345	30	5	17%
					341	31	10	32%
					430	39	7	18%
					374	34	5	15%

